
魔法少女リリカルなのはStrikerS SS 一黄金朝の騎士たち一

ハナタレリーナ?世

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのはStrikers SS | 黄金朝の騎士たち |

【Nコード】

N1981J

【作者名】

ハナタレリーナ?世

【あらすじ】

- | 彼等 |
- | 見定める者 |
- | 王の資質の前に現れ |
- | 王の人格を問う |
- | その者 |
- | 彼等全員より嫌われしとき |
- | その者の国 |

―瞬く間に崩壊す―

―その者―

―彼等全員より好かれしとき―

―その者の国―

―繁栄の極みを得る―

―故に彼等の名は―

魔法少女リリカルなのはStrikerSの二次作品です。
オリキャラなどが許せない人はできるだけ見ないで下さい。

Prologue (前書き)

ども、初小説、初投稿。

何から何まで始めてづくしです。

かなりの駄文、投稿の遅さ、その他もろもろ色々な不手際があると
思いますが、

どうか読んでもらえれば幸いです。

Prologue

「で、ここにそのスカリエッチイがいるのか？」

緊張感の無い、むしろ楽しんでいるかのような声が響く。

「スカリエッチイですよ、何回目ですかそれ？」

反対にこちらは明らかに呆れた声色を出している。

「んな細けえことどーでもいいじゃん」

そして獄中に囚われし異端の研究者。

「くくくくく、人に名前で遊ばれるなど初めての経験だ」

その声もおおよそ捕まってるとは思えない声色だ。

「あーおたくがエッチな人？」

軽い調子で明るくふざけたことを言う。

「くく、そうだな君の言葉で言うエッチな人だ。」

だが研究者は、まるでおもしろい玩具を見つけたかのような口調で返す。

「ほらなー、やっぱそうだったじゃん。なにせこいつが作った戦闘
機人、女ばっかだもん」

まるでどうだとも言わんばかりに明るい声の持ち主は自慢げに語る。

「はあ〜」

呆れ声の主はもはや溜息をつくことしかできないのだろう。

「くくははははは、で、君らは私に何の用事があったってこんなところまでわざわざ来たんだい？」

「え？」

今日、私はちよつとした気まぐれでジェイル・スカリエッティと彼が生み出した戦闘機人、ウーノ、ドゥーエ、トーレ、クアットロ、の4人の様子を久しぶりに見て、それで終わるはずだった。

だが、スカリエッティのところの牢獄にはスカリエッティ以外の二人の人物がいる。

一人はぼさぼさというのとも違う、カラス頭やウルフなどと言われているような髪型とも違う、なんとも形容しにくい髪型。

だがそんなのはただの引き立て役にすらもならないとも言つような、見るものを魅了する白銀の髪。

そして、薄い灰色の外套がいつそうそれを際立てている。

もう一人はいわゆる普通の、どこも跳ねたりせずシヨートのストレートの髪型。

ただこちら髪の色が普通ではない。

相方の服の色とは違う、濃い灰色だ。

身に纏っている物は外套だが、こちらは白と黒とを基調としていて、なんとも目立つ。

そして二人の外套に描かれている、太陽をモチーフにしたようなシンボル。

二人が仲間であることを証明している。

二人はどうやら、スカリエッティと話をしているようだ。

そのことを私は見逃すことはしない、見逃せるはずがなかった。

いろいろな理由はあるが、私は管理局の人間だ。

「その二人、その次元犯罪者、ジェイル・スカリエッティとどういう関係ですか？返答しただいでは、あなたたちも逮捕させてもらいます」

「うわー、すんげー美人」

今まで私はファンレターなどは貰ったことはあるが、面と向かってそんなことを言われたのは初めてだった。

なによりそれを言った彼は美形だった。

髪と同じ白銀の目が、私を吸い込むような妖しい光を放っている。

「ふざけないで下さい」

「いやあ〜真面目にふざけてるよ？」

隣の相方は哀れな目を私に向けてくる。向こうもかなりの美形でなんか腹が立つ。

「つかおたく誰さ？」

「彼女は时空管理局執務官のフェイト・T・ハラウオンだよ」

「へーくわしいなあ、流石スケベヤロー」

「くくくっ」

「……危険だ、この白銀の少年と変態科学者の組み合わせは危険だ。」

「まあ、つつーわけでこいつ貰うわ」

「……えっ!?!?」

「嗚呼、救うんじゃないやなくて貰うんだから。そこんところ大事だからよろしく」

「なっ！そんなの認められません！！」

そんなの認められるはずが無い。ジェイル・スカリエツィは最悪の科学者だ。

それをこんなわけの分からない二人組み、ううん、確実に片方は変態なコンビと一緒に行かれたらどんなことが起こるか分からない。

「そろそろ行けるか？」

「まあ、行けるんですが……このまま放って置くのは流石に彼女可哀相ですよ？」

「だってしょうがないじゃん、俺らにはからかうことしかできないんだから」

「まあじゃあ行きますか、後その管理局の方頑張ってください」
それが彼らの最後の言葉だった。

一瞬の光の後、そこには誰もいなかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1981j/>

魔法少女リリカルなのはStrikerS SS ー黄金朝の騎士たちー

2010年10月14日12時00分発行